

# 2013 一橋大学政策フォーラム 「経済成長と科学技術イノベーション政策」

— 経済成長戦略のなかの科学技術イノベーション政策が果たす役割を考える —

---

パネルディスカッション； 医療の視点から

永田 良一

(株式会社新日本科学)

# 国民の健康長寿社会構築へ提案

---

1. 日本版GNHを創設し、国民の生活を精神面も含めて複数の視点から比較・評価する基準を設けることで、国民が健やかに豊かで幸福な人生を全うできる社会と健康格差を生まない社会を構築する。

GNH: Gross National Happiness 国民総幸福量または国民総幸福感

2. 日本版NIHのもとで、医療産業を育成し、医療をコストセンターからプロフィットセンターへと変革させ、日本発医療イノベーションをデファクトスタンダード化して世界市場で実用化することで、日本が世界の健康立国モデルとなる。

# GNHとは？

---

- ・ GNH(Gross National Happiness)は、国民総幸福量または国民総幸福感を示し、「国民全体の幸福度」を示す“尺度”として、ブータン王国が提唱した。
- ・ 精神面での豊かさを「値」として、国民の社会・文化生活を国際社会の中で評価・比較・考察することを目的としている。
- ・ 国民総生産 (GNP)や国内総生産 (GDP)という、国の経済的生産および物質主義的な側面での「豊かさ」だけに注目しない。

(参考資料1)

# ブータン王国の実態

「ブータン王国が世界一幸せな国だと言われているのは、なぜ？」

- ブータン王国の実態は、山岳地帯が国のほとんどを占め、産業はほとんど無く、医療や科学水準もかなり遅れている。
- 離婚率も高く、Single Motherには仕事がないから現金収入がない。  
教育は無料と言っても、学校自体が少なく、遠方の農家は子どもを学校に行かせるのは困難である。では、その人たちは不幸かというと、不幸ではない。
- 国民の97%は幸せだと言う→ 理由は、幸せの定義が違う
- 幸せは、自分の内側にあり、静かな湖面のように永続性を求めること。
- 実際、国民は、家族が近くにおいて、健康が維持され、それほど贅沢はできないけれども、ひもじい思いをしなければ良い、という考え方が浸透している。

## ブータン王国ティンレー前首相：

「日本人は快樂と幸福を混同している。快樂と幸福は違う。」

---

- ・ 快樂とは、人間の五感の一時的な刺激に過ぎない：  
何かを見たり、聴いたり、香りをかいだり、食べものを味わったりする  
感覚である。長時間、長期間にわたると飽きてしまう。
- ・ そもそも快樂や享樂というものには永続性はなく、これらの要求を高めて  
いくと、逆に苦を引き寄せてしまう。 →五蘊盛苦(ごうんじょうく)
- ・ 実際、日本人は、經濟中心社会を長らく進んできた。そこでは、快樂の中  
に幸福を見出すような生き方をしてきた。今、ここで急にブータンのような  
生き方は現実的でない。
- ・ したがって、日本人の目指す方向性は、經濟の發展のみに頼らず、地球  
規模の視点で生活環境が整備されて、生活不安(大規模自然災害)に  
対する備えができており、文化の継承が世代間でなされている、このよう  
な複数の視点から幸福を考える必要がある。

# 日本版GNHの基本理念(参考資料2)

## 「健康格差を生まない健康長寿社会の実現を目指す」

→ 足るを知る「知足」という生き方を根底にする理念が適している。



京都竜安寺

吾唯(ただ)  
足るを知る

# 医療政策提案 短期的視点(参考資料3)

---

日本版NIHは、日本国が何を優先して医療政策、医療研究を重くするのかという、思想を持たなければならない。限られた予算を長期的視点に叶う方向で執行する事が重要である。

具体的には、外部シンクタンクを用いた政策議論、その内容を反映する仕組みが必要である。また、世界を視野に入れて、海外医療系シンクタンクや米国特許事務所などとの交流も深めるべきである。

まず、注目されている再生医療に関する規制緩和を行うことが必要と考える。

1. 民間保険との連携
2. 混合診療の解禁
3. 限定承認制度を確立
4. 生物由来原料の利用緩和

これらは早期に実現される事が必須である。

## 医療政策提案 中長期的視点(参考資料3)

---

日本の医学界には産業として成長する様々な高い技術ポテンシャルがあるが、十分に実現されていない。産業化や起業を促すために、医学生、医療関係者を対象にトランスレーショナル・リサーチの啓発を行い、成長できる領域であることを自認識させることが必要と考える。

具体的には、以下を早期実現し、最低10年間は続ける必要がある。

1. 医学部早期教育において、新薬や医療機器の開発プロセスについて、経験のある実務家が教育を担当し、臨床医とは違う立場で数多くの患者さんの治療に深く関与している実体を理解させる。
2. 臨床現場を経験した若手医師を対象に、産業化や起業のキャリアパスの実態を知らせることにより、臨床でのアイデアが実用化できる事を理解させる。